

グローバル展開プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

- ◆課題:「グローバル社会における排他主義とデモクラシーに関する総合的研究」
- ◆研究テーマ:「「難民危機」の時代におけるレイシズムの変容とその克服策に関する国際比較研究」

研究期間:H29.2~H31.9
委託費総額:22,526千円

<研究代表者>

飯田文雄:神戸大学大学院法学研究科/教授



<専門分野>
現代政治理論、政治哲学

<研究計画の特徴>

- 政治哲学と政治史の協働
思想・運動など多方面にわたる複合的性格を持つレイシズム分析に対応するため、政治哲学・政治史の専門家が協働
- 各国の研究者との双方向な共同研究
日米欧8カ国の研究者とネットワークを構築し、現地調査・日本への招聘などを通じて双方向な研究を行う
- 若手研究者の研究参画促進
海外学術交流の経験が豊富な研究メンバーとの共著報告などを通じて、若手研究者の国際交流を加速化

<研究目的・概要>

- ・2015年のいわゆる難民危機以降、各国でレイシズムが深刻な政治的問題化
- ・しかし各国の研究者は孤立し研究方法も未確立



難民危機以降のレイシズム変容の諸相とその克服策に関して、歴史的・国際的な比較研究を組織する緊急性

- ・歴史的・国際的に多様なレイシズムの事例を包括的に検討することで、レイシズムの普遍的な特色、ソーシャルメディア発達など近年固有の拡大要因、各国固有の拡大要因などの体系的考察が可能に
- ・レイシズム対応策についての体系的考察も可能に



従来難民問題に関する学術的・実務的貢献が遅れていた日本発の研究成果を発信

<目標とする研究成果>

(1)レイシズム国際比較に関する体系的分析手法の確立

ヘイトスピーチと国粋主義政党という二つの具体的争点に着目し、従来の印象論的分析を脱した体系的・具体的な分析手法を確立し学術界及び市民に発信

(2)研究成果発信の多地域化・多世代化

従来言語障壁の高さから国際発信が乏しい政治哲学・政治史領域において、若手世代を積極登用し、より多様な地域の国際学会での成果公表を目指す

<将来展望>

レイシズム研究に関する国際拠点の形成